

(様式第1号)

## 市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和4年 7月 22日 ( 金 ) 19時00分 ~ 20時30分			開催場所	鶴岡市消防本部 5階 講堂	
出席議員	氏名	役割	氏名	役割	氏名	役割
	本間 正芳	座長	黒井 浩之	司会	長谷川 剛	記録
	南波 純	受付・撮影	菅原 一浩	会場設営	中沢 深雪	議会だより
欠席議員	佐藤 麻里					
テーマ	消防団の現状と課題、並びに今後のあり方について					
団体等の名称	鶴岡市消防団 正副団長 (6名)			参加者数	6人	
実施内容 (概要等)	少子高齢化や社会環境の変化により、地域の消防団員のなり手不足が深刻になっている。併せて消防団報酬が分団への支給から団員個人への支給に変わり団員の減少が続いている。組織の統廃合等を含め、将来の消防団のあり方も交えながら、消防団幹部と意見交換を行い、現状と課題を共有する機会とする。					

※主な意見及びその回答は、別紙のとおり

令和4年 8月 12日

鶴岡市議会議長 様

総務・市民文教・厚生・産業建設 班 代表者 黒井 浩之

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>令和4年4月1日で基本団員合わせて2,898人。初めて3,000人を切る。今年度から個人支給に変わり活動に参加していない団員が辞めた。入団者よりも辞めた人が多く、温海、朝日地域の減少が著しい。若い人は家庭を大事にする。時間を取られることに納得していない面がある。負担軽減を考えなければならない。操法大会は行わない予定。それに代わるものを検討中。現場で役に立つことをやっていきたい。</p>		○			
<p><b>鶴岡市消防団副団長・豊栄</b></p> <p>藤島地域でも人口の過疎化、団員の確保が困難な状況だ。誘っても返事をしない、親が断るケースも。町内会長と一緒に勧誘できないか？自治会も携わってもらえれば。議員からも働き掛けを。</p>	<p>消防団員の成り手不足解消のためには、町内会長会などでもアピールする機会が必要だと思う。町内会長会は、各地域でやるので、チラシ配布など、集落の安全安心を担っていることをアピールした方がよい。</p>		○		
<p><b>鶴岡市消防団副団長・睦町</b></p> <p>旧市内でも若い人が居なくなっている。人集めに苦労している。いざ火災の時に活動できない悔しい思いもしてきた。自営業者がおらずサラリーマンが多い。消防団あり方検討会などで、一つひとつ解決する必要がある。</p>		○			

<p><b>鶴岡市消防団副団長・高坂</b></p> <p>方面隊は減っていない。機能別団員も含めて維持している。代わりを入れなければ抜けられない。自分の地域は自分で守る。いざ有事では人手がいる。これからどう考えていくのか？今の団員数が多いのか少ないのか？</p>		○			
<p><b>鶴岡市消防団副団長・大網</b></p> <p>消防団も変わってきている。平成6年に入団したが、当時は家の中まで入って指導していたが、今は、プライベートから入らない。社会が変わってきている。昔は農家が多かった。日中家にいないサラリーマン、三交代など団員の負担も増えている。集まりに人が来ない。地区の総会なども。情報の伝達スピードが上がった。YouTubeでの情報発信。消防団だけでなく、取り巻く環境も変わった。入団者の減少にもつながっているのでは。</p>		○			
<p><b>鶴岡市消防団副団長・湯温海</b></p> <p>湯温海でも団員が足りない。20年前、550人居たが300人切る。子どもが高校入学時に鶴岡に移住する人多い。当時は、入団を家族から勧められた。今は、行っても居ないか40代。その歳からだと怪我をする。操法に代わるもの、現場で身を守るのが訓練だ。これから、団員が減っていくと初期消火、後方支援が大変になっていくのでは。いつまでやるのか…という不安もある。</p>		○			

<p>鼠ヶ関は450軒で人口多いが、ほとんど漁師が担う。機能別団員として後方支援があるのでなんとかやっている。</p>				
<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>消防団あり方検討会を年6回開催。テーマを絞って操法大会や行事を絞ってやっている。問題点を出して、決めたいが、団員がやる意義を感じてもらえないと、存続もできない。みんなの意見を聞きながらやっている。組織の再編は長い目で見ないと。3,000人切るが、多いのか少ないのか。定数的には、消防庁の考えだと1,000人程度だ。団員が多いと装備が新しくない。300を超える班があるが、大きいがゆえにお金がかかる。市としてどのようにしていきたいか逆に聞きたい。</p>		○		
<p><b>消防本部警防課</b></p> <p>補助金は変わらないが、財政状況が厳しい中、優先順位を決めて行っている。利用できるコミュニティ助成のあたりはずれがあると思うが、消防の手袋、カッパなど更新した。しかし、一度に更新は厳しい。</p>	<p>消防本部では、国からの交付金もあってポンプ車、ポンプ庫の更新あると思うが、これから絞られていくと、国の方針や市の方針はどうなるか？</p>	○		
<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>消防団員何しているのか？という目で見られている。厳しい目も。コロナ禍で「なぜ訓練しているんだ」の声あったが、実際訓練しないと現場には行けない。</p>	<p>災害時に（団員の）半分しか来れない状況もあるので、今の団員数が多いとは思わない。</p>	○		

<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>今までは、分団の口座に。分団や班の活動費など。年 25,000 円ほど。</p>	<p>私自身、消防団の活動を分からなかったが、今年の 4 月に報酬の個人支給が始まることを知った。困っている点はあるか？</p>	○			
<p><b>鶴岡市消防団副団長・大網</b></p> <p>本間先生言った通り。報酬もらって、班や分団で管理していた時と比べ、懇親や反省の場が少なくなった。必要な場と思っていた。</p>	<p>個人支給になるとおおらかな部分がなくなってしまったのでは？さらにコロナで困難では？</p>	○			
<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>操法の練習が負担に。約 2 ヶ月、訓練するが、会社員が苦痛だという声がアンケートでは大半を占める。どの程度の訓練が必要なのか。現場で火を消すことが目的だ。</p>	<p>消防団あり方検討会で出されていること、検討されていることは何か？</p>	○			
<p><b>鶴岡市消防団長・長崎</b></p> <p>消防職員から消防団の PR をしてもらっている。自らが広報するのは時間もないためである。</p> <p>消防団には、いろんな職種の人がいるので何でもできる。消防団員が地域コミュニティの核になっている。住民からもあてにされている。団としての役割、それ以外の役割と多く求められている。団の仕事と関係ない仕事やった時に怪我したらなど苦勞しているところもある。</p>	<p>みんなに分かってもらう取り組みが必要だし、地域コミュニティそのものの課題があると思う。</p> <p>新しく入る人はどんな人か？</p>	○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの